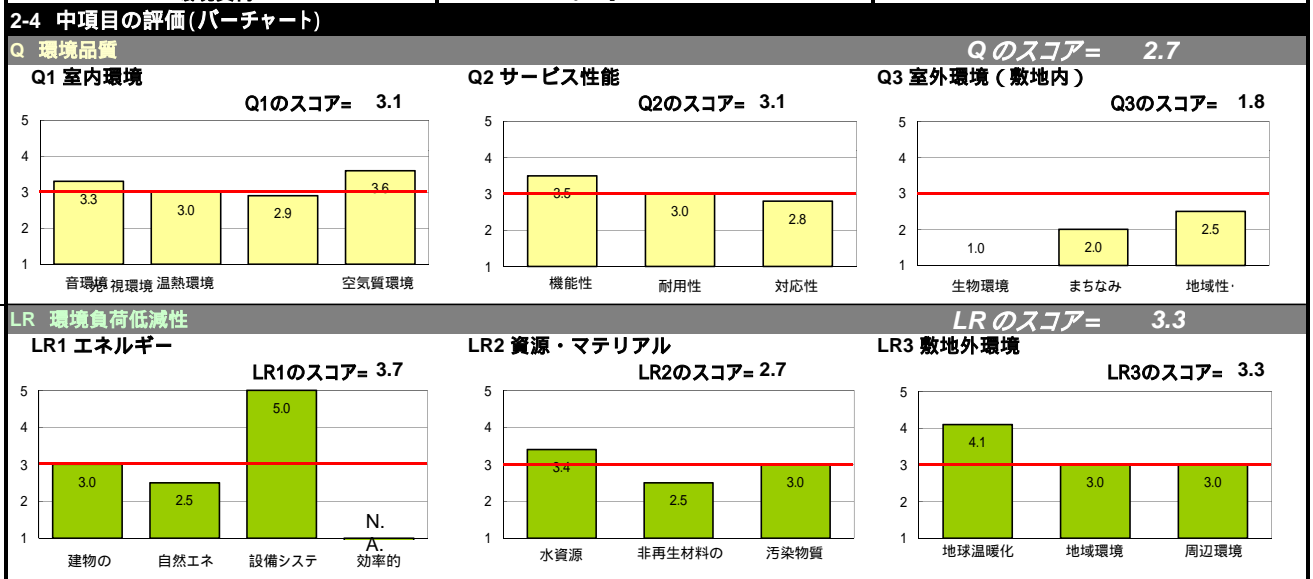
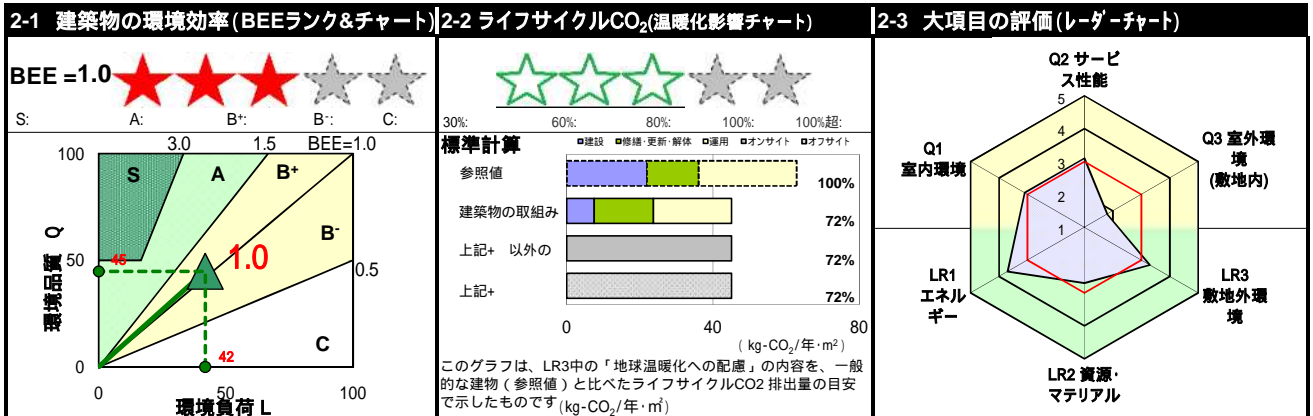


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) プレシス本厚木	階数	地上15F
建設地	神奈川県厚木市栄町1279-1	構造	RC造
用途地域	商業地域, 防火地域	平均居住人員	196人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年8月	評価の実施日	2013年1月10日
敷地面積	962 m ²	作成者	(株) オンスデコ
建築面積	440 m ²	確認日	2013年1月20日
延床面積	4,684 m ²	確認者	ワールド環境コンサルタント

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項		
<p>総合 当敷地は小田原急行線小田原線本厚木駅西部の西部に位置し、近隣には最近多くのマンションが建設されています。集合住宅の設計に際し、計画上の配慮としては近隣を含めた環境空間を壊さずに、いかに環境空間にマッチするかに配慮しました。(外観・建築物の規模等) 又、外構の計画においても、出来るだけ緑地を増やし、緑化計画で空地率・緑化率の増大に配慮しました。</p>		<p>その他 特にありません。</p>
<p>Q1 室内環境 音環境に関しては、重・軽量衝撃音の低減を重視しました。温熱環境では、品確法による等級3のレベルで断熱材を施工します。空気環境に関しては、仕上材料はFに基準の材料を使用します。又、24時間換気を採用します。</p>	<p>Q2 サービス性能 機能性に関しては、得に配慮はしていません。耐用・信頼性に関しては、建築物構造部分の耐用年数を長くするため品確法(劣化)による等級3の材料で施工します。住宅設備等に関しては、品確法(維持管理)による等級2のレベルで施工します。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の環境に関しては、敷地の空地率を出来るだけ増加させ、その部分への植栽を計画しています。又、空地率の増加による風等の影響の低減を考慮しています。</p>
<p>LR1 エネルギー 省エネルギーに関しては、集合住宅であるので共用部分の照明機器・照明器具を省エネルギー仕様の製品を使用しています。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 水資源・再生性資源の活用に関しては、特に環境への配慮はしていません。汚染物質に関しては、空調機器はフロン等の汚染物質は使用しません。水道蛇口・シャワーヘッド等に節水機器を使用する。</p>	<p>LR3 敷地外環境 環境の温暖化・大気汚染に関しては、特に環境への配慮はしていません。周辺の環境に関しては、ベランダ手摺を腰壁とし近隣へのグレアの影響を低減しています。又、外壁の表示等は発光の表示を行いません。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される